



セカンドハーベスト名古屋

# SECOND HARVEST NAGOYA PRESS

2021.1月号

NO.15

発行元 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋

〒462-0831 愛知県名古屋市北区城東町七丁目148番地

TEL:052-913-6280 FAX:052-913-6281

E-mail:info@2h-nagoya.org URL:https://www.2h-nagoya.org/

編集/印刷 橋本写植

## SDGs 食品ロス削減セミナーでの山内理事長 ～ワインクあいちにて～



セカンドハーベスト名古屋の取り組むSDGs

### 理事長挨拶



2020年、新型コロナウィルス感染症により社会が大きく変わりました。日本の景気は大きく後退し、6万人を超えた解雇や雇い止めも(2020年10月末時点)増加傾向にあります。そこで私たちセカンドハーベスト名古屋(以下、2HN)は、行政が設置した相談窓口や子ども食堂、各種福祉団体と積極的に連携し、コロナにより生活に困っている方へ支援活動を行いました。その結果、昨年よりも多く食品を集めることができ、昨年よりも多くの生活に困っている方達へ食品を届けることが出来ました。これも当団体を信頼して応援してくださる皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。

さて、現場で活動する中で、心に残った出来事をご紹介します。ある日「3年前のお礼がやっと出来ます。困っている人のために使ってください。」そう書かれた手紙が添えられ、10万円の現金書留が届きました。差出人は2HNが食品を届けた70代の女性。手紙には、今は年金で何とかひとり暮らしていること、あの時のあの食品が本当に助かったこと、そしてそのお礼として国から支給された10万円の特別定額給付金を2HNに寄付することが書かれていました。こころ動かさ



れ、何度も、何度も読み返しました。

こうした出来事にフードバンクの現場では、しばしば出会います。「自分で作った米を捨てるのが嫌でね。ここ(2HN)に寄付すれば食べてくれる人に届けてくれるんだろ。受け取ってくれてありがとう。」と、お米を寄付してくださった農家の男性。「私にできる事をやっているだけだよ」と、週1回3時間かけ倉庫の掃除をしてくださっていた高齢のボランティアの男性。そして、先ほどの手紙の女性。こうした出来事を通じ、実は多くの人が「誰かに何かしたい」と感じていると私は思います。



アフリカのことわざに、こんな言葉があります。「早く行きたければひとりで行け、遠くまで行きたければ、みんなで行け」コロナにより社会が大きく変わり、食品ロスや貧困問題がさらに大きくなつたと感じます。解決の道は長く険しく、ひとりだと思わず立ち止まってしまいます。しかし、フードバンクの活動を支えてくださる皆さまの「誰かに何かしたい」という想いに出会う度に、心強く励まされ活動を続けられます。これからも皆さま温かいご支援、どうぞよろしくお願いします。

理事長 山内大輔

### CONTENTS

- 理事長挨拶……………p.1 お米作りはじめました…p.2  
団体訪問……………p.3 Fresh eyes……………p.4

## 支援の拡がりと深まりを 「食のセーフティーネット」構築に向けて

フードバンクの理想とされる形は食の地産地消。発祥の地、アメリカでは各地の教会などを拠点に地域に根差したフードバンク活動が隅々まで広がっています。日本での認知度はまだ低く、各地域での拠点整備まではなかなか進みにくく、現在食品の輸送問題などから当団体に足をお運び頂ける組織への支援に限定されているのが実情です。

そうした中2018年度より、東海三県での連携強化



フードバンクにとってお米の確保は活動継続の為の生命線。前号既報の通り、毎年お米の確保には大変な苦慮をしています。そんな不安定さを何とか解消できないかと今般農家さんにご協力を仰ぎ、フードバンク初の試みとしてお米作りが始まりました。以下、ご協力を頂きます三重県菰野町の農家、萩さんのインタビューです。

奥様と6歳、4歳の娘さんがいらっしゃるご自身はフルマラソン3回完走のスポーツマン。36haもの作付農家さんです。どのようなお米作りをされていらっしゃるんでしょうか。



Q.農家を始められたきっかけをお聞かせ下さい。

21歳、家業の農家のお手伝いからです。当初はまだ兼業で3haしかなかったんですよ。独立して専業で食べていけるまで実は10年掛かっています。和牛の牧場でアルバイトをしながら、ようやく10haの作付を確保し、独立しました。

Q.少しずつ買い足されて?



いえいえ。大規模農家も同じですが、担い手が居なくなった土地をお任せ頂いてという形です。作付面積は増やしたい。でも担い手がいなくなり、困ってみえる土地に自ら出向き「やらせてください」なんて話でもないですし。

ですのでなるべく丁寧な仕事を心掛けました。畦に草が生えっぱなしでない、手の行き届いた綺麗な田んぼ。

農家さんなら一目見てわかるんですよ。ちゃんとやってる農家さんかどうか。「あなたにお米を作つてほしい」と言って頂こうと思いました。

の為、既にフードバンク活動を行っている、もしくはこれから行おうとしている計10団体にアプローチをし、四半期に一度「ネットワーク研究会」と称した勉強会を行ってまいりました。

食品の収集と配布のマッチング、食品保管と配布先管理など、フードバンク運営の基礎から単体での活動資金の確保まで。課題は多くありますが、利便性高く皆様の生活に寄り添う身近な存在となりますよう東海地方における「食のセーフティーネット」構築のため、今後も引き続き活動して参ります。

Q.そんなお米作り、やってて良かったと思う事は?

そんなことだけですよ!だって楽しくて仕方がないんですもん。農家の何がそんなにと思われるかもですけど、まず作物を育てる楽しさがある。独立してるのでどんな結果もシンプルに自身に降りかかる。そんな自己責任の感覚がぼくにはとても合っていて。それと…(笑)子供っぽいですかね、規模が大きくなればもっと大きい機械も買えるんです!ぼく機械大好きなんで。色々いじったり。そう、子供のプラモデルと同じ感覚です。(笑)

Q.今回は「みえのゆめ」という品種をお作り頂きました。何かこだわりは?

うちは牛糞とともに穀で減化学肥料のお米を作っています。うちで出た稻藁を牧場に持ち込むと無償で牛糞と交換してくれます。その代わり化学肥料ほど効率良いものではないので1反に1t~1.5tもの牛糞とともに穀をまきます。有機もやってみましたが、採算にのせるのはなかなか、ね。

こうして僕の作ったお米でお腹を満たして頂けると思うと僕もとても嬉しいです!

おおらかで優しい語り口の萩さん。「いい事なのでさせて頂きます」と曇りなくおっしゃって下さったそのお言葉が、とても印象的でした。今後共ご無理のない範囲でよろしくお願ひ致します。



▲引渡し当日、取材いただきました  
メディアの皆さんを囲んで

▲お米の引取には輸送業務提携先 株式会社ジェイトップさんのご協力を頂いております

## 特集☆ わっぱの会

障害を持つ人もそうでない人も皆が「共に働き生活し、共に生きる社会を実現しよう」と1971年に設立。障害者との共働事業所をはじめ、有機野菜、パンの製造(無添加わっぱん)など事業内容は実際に多種にわたります。近年はカフェなどの入る複合施設「ソーネおおぞね」も開設され、地域社会の活性化にも貢献されています。代表の斎藤縣三さんに伺いました。

**Q:わっぱの会の事業は本当に多岐に渡りますが、ソーネおおぞねの子ども食堂に2HNの食材を使い頂いていますね。**

もともと広いスーパーの跡地です。「しげんカフェ」というコンセプトのもと市民主体のリサイクル事業ができればなと思いました。洗練された店でもないと人も集まりませんから、デザインにもこだわりリノベーションを。その甲斐あってか<愛知まちなみ建築賞><名古屋まちなみデザイン賞>も頂く様な施設となり、遠方からも多数足をお運び頂いています。普段なじみのあるカフェの提供する「ソーネみんなでごはん」です。安心頂くよう開始当初は人数制限が必要なほどの大盛況。コロナ禍ではお弁当に切替え400食限定で提供をしています。



▲資源リサイクルの買取でもお世話になっています

**Q:また2HNとの関わりは深く、名古屋市運営の自立支援相談窓口「サポートセンター大曾根」を他の2団体と共に市の業務委託を受け運営されています。**

事情を聴き、緊急の食料支援が必要と判断すると翌日には相談者のご自宅まで支援箱が届きます。（2HNが担います）我々はもう一步踏み込んで郵送だけに頼らず、職員がそれを直接届けることもして行こうと。座ったままの支援でなく、相談者との心のつながり「顔の見える支援」を大切にしています。

SC大曾根は公的資金で成り立っていますが、生活に困っている人に助成金の中から資金や物資を貸し付けてはいけないという歪みがあります。そんな中



2HNの食料は相談業務に欠かすことのできない支援。その事業がボランティアによって成り立ち、どうして行政が制度的支援をしないのかと常々感じておりました。本年度名古屋市への提言12の中にそのことも盛り込んでいますよ。

**Q:公的な支援としては生活保護制度もありますね。**

この二つの支援。実はほぼ完全に切り離されています。私共がいくら関係性を築こうとも生活保護制度にかられると、こちらは一切手を出せなくなる。同じ行政の行う支援です。情報共有の段階からもっとしっかりと連携をし、生活保護制度の部分利用、例えば医療費だけ助けてもらうなど柔軟な連携がとれるようになると、本人の「自活」に繋がるような制度へと変えられるように思います。窮した中の金銭的支援は大変ありがたいのですが、折角「自立」をしようとする人の意欲を削ぐような制度となつては残念なことにしかならないですからね。

**Q:創業より約50年。一貫し、弱者の立場に寄り添つて来られた斎藤様。現在の想いをお聞かせ下さい。**

学生時代、障害者福祉の在り方に疑問を持ったのが出発点です。当時、障害者は隔離され、それが福祉だったんです。誰も共生、共働とは言わない時代。現在も山の中の隔離から、町の中の隔離に変わつただけ。障害者雇用促進法も数字だけを整えてみても彼らを取り巻く環境は厳しく、変わっていかないんです。まだまだ私にはやりたいことがいっぱいです。今度経産省の商店街活性事業を利用し、大曾根商店街に新わっぱの店も出店する予定です。



### 団体概要

#### わっぱの会

名古屋市北区田幡1丁目11-31

HP <http://www.wappa-no-kai.jp/>

#### ソーネおおぞね

名古屋市北区山田2丁目11-62

大曾根住宅1棟1階

TEL:052-910-1001 FAX:052-910-0018

HP <http://sone-ozone.com/>

E-mail:[sone-ozone@wappa-no-kai.jp](mailto:sone-ozone@wappa-no-kai.jp)





## 学生レポート!

## Fresh eyes -僕の目に映るもの-

こんにちは！学生ボランティアのHと申します。今号ではボランティアの皆さんにアンケートを実施。コロナ禍で先の見えない今だからこそ、願う未来像をお伝えできれば幸いです！

## Q1.活動に参加されたきっかけを教えて下さい

メーカー勤務で食品ロスに心を痛めて

- 新聞記事、理事長講演を聴いて
- 子供の貧困に関心があって
- 東日本大震災
- 友人がいたから

定年退職(子育て)後、社会とのつながりを求めて

映画「わたしはダニエル・ブレイク」を観て

- 何か自分に出来るボランティアを探していた
- たまたまチラシをもらった

## Q2.コロナ禍で活動を担う一員としての想いや、願う未来像などをお聞かせ下さい

東海地方の中核として各地に拠点整備を進め、困っている人へより身近な存在に

- ウイズコロナ対策を万全に、できる限りの活動継続を
- 日本中のフードバンクとつながり、食品の流通を
- 食品を大切に、感謝を忘れずに

コロナ禍により生活に困ることは誰にでも起こりえるのだと改めて認識。  
「困った時はお互いさま」という気持ちで活動していきたいと思います

2HNがなくてもいい世の中になってほしい

- どうしてもロスができるならそれを寄付する企業こそが評価される社会になってほしい
- 「もったいない」の最小化も大事だけど、どうしようもなく困った時に手を差し伸べる事が出来る  
心のゆとりを持てる未来に
- 第1波は活躍できなかつたけど次は活躍するぞ！

誰にもお腹を満たし安心して眠れる場所がありますように

## 活動紹介

そんな皆さんのが  
活動している2HNの  
様子を動画で紹介して  
います。

ぜひご覧ください！



## 編集後記

弊団体の周りには内外を問わず多くの心ある方がいて下さいます。今号ではそうした皆様のご尽力をなるべく感じ取って頂けますよう構成をさせて頂きました。食の持つ力によって「ほっとする」「安心する」を担う活動でありますように今後共お力添えの程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ボランティア 会報誌メンバー一同

## 寄付のお願い

いつも2HNの活動へのご理解、ご協力をありがとうございます。私たちの活動は行政からの支援は一切なく、皆様からの寄付金、会費、助成金などにより支えられています。

今後も皆様のあたたかいご支援、何卒よろしくお願ひいたします。

※2HNは名古屋市の認定NPO法人で、2HNへの寄付は所得税の寄附金控除の対象となります。

## 銀行振込

三菱UFJ銀行 栄町支店 普通口座 0015287

特定非営利活動法人 セカンドハーベスト名古屋

※領収書が必要な方は、info@2h-nagoya.orgまでご連絡ください。

## クレジットカード

単発での寄付だけではなく、毎月の継続寄付メニューもご用意しております。

1,000円/月  3,000円/月  5,000円/月  10,000円/月

セカンドハーベスト名古屋 寄付

